

# 令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

## 1 本年度の重点目標

「DNA」(第二アンビシャス)を紡ぎ、「どの子どもだいにスマイル」へ  
規範意識の定着 主体性と善悪の判断 思いやりと共感 自浄力の育成 メタ認知の育成

## 2 本年度の経営方針

**よく考える子【かしこい子】**  
自分の考えを広げ深めるために主体的に問題解決に取組み、他者と思いをつなげるためのコミュニケーションがとれる子どもを育てる  
**助け合う子【やさしい子】**  
他者を敬い、あいさつや正しい言葉遣いを通して、気持ちを伝え合うことができる子どもに育てる  
**強く明るい子【つよい子】**  
体育や休み時間、友だちと元気いっぱい体を動かしたり、縄跳び運動に取り組んだりする子どもを育てる

## 3 自己評価結果に対する学校関係者評価

重点	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
よく考える子 (知)	子どもは、学校の授業が分かっている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「分かっている」と答えた児童が67%に対して、保護者は36%、教職員はさらに低い。これは、児童と大人との間で、どれぐらいならば「できた」と判断できるのかという目標のイメージに隔たりがあるためと思われる。「これぐらいで満足」と思う子どもと、「もっとできる」とさらなる成長を期待する大人の意識の差が表れている。これを少なくするために、例えば目標を子どもと一緒に設定する、具体的な達成イメージを子どもと一緒に持つなどの関わり方を工夫するとともに、自分を見つめ、自分の能力に応じた目標を設定する、目標に向かって計画を立て、実践するなどの自己調整力を高めることが今後の課題である。</li> <li>ICT活用については、学級によって活用具合に差がある。学校として活用スタンダード(学びの土台)を作成し教職員内で共有することで学級間の活用に差が出ないように、ICT教育部が主導してICTを活用した学びを推進していきたい。</li> <li>朝の活動で継続して読書を行ってきたことで、読書に親しむ子が多くなった。</li> </ul>	A	A
	子どもはICTを活用して学習に取り組むことで学力が向上している。				
	子どもは、本に親しむ姿勢が身についている。				
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT活用については、これからどんどん必要性が高まっていく。</li> <li>朝読書をしてから授業に入る流れは、学習にスムーズに入ることができる。よい取組である。</li> </ul>				

(様式2)

		・子どもたち自身が、学びの深まりを実感できる取組が行われている。			
助け合う子 (徳)	子どもは、善悪の判断を考えて行動しようとしている。	A	・子どもの「よさ」を積極的に見つけ、それについてしっかりと価値付けるとともに、そのよさを全体に広めることを続けてきた。そして、行動した本人の自信の高まりや、周りも「そうありたいなあ」と思って行動しようとする意欲が高まることを期待してきた。誰も見ていなくても周りのために行動できる児童の姿が見られ、成長を感じている。	A	A
	子どもは、自分で使うものや学校で使うものを大切にしている。		・全校朝会などの全校行事における子どもたちの姿がとても素晴らしくなっている。整然とした姿で話を聞くことができる姿から、今何をすべきかを子どもがしっかりと理解していたり、なぜそれを行うか納得したりしていれば、正しい行動を自信をもって行える子たちばかりであることに気付いた。		
	子どもは、学校のきまりや時間を守って生活している。		・これまで特別教室は常時施錠していたが、子どもたちの現在の様子から施錠しなくても落ち着いて生活できると判断し、常時開錠することにした。 ・集団の一員としての自覚や、相手意識をもった生活を意識すること、そして大人が子どもたちを取り巻く言語環境を整えれば、本校が目指す「助け合う子」の実現は夢できると考える。		
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・たまに学校に行くと、子どもたちはきちんと整列し、先生の話をしている様子が見受けられる。</li> <li>・子どもの「よさ」を捉え、自信につなげていこうという取組が、学習発表会での子どもたちの姿によく表れていた。</li> <li>・主体的に取り組む子どもたちが育まれている。</li> </ul>			
強く明るい子 (体)	子どもは、休み時間に体育館やグラウンドで遊んでいる。	B	・休み時間にグラウンドや体育館で大いに遊ぶ子どもの姿が見られる。また、放課後も仲間を誘い合ってグラウンドで遊ぶ姿がある。これは、本校にとっても強みである。運動に関して3つの間（時間、空間、仲間）が少なくなっているのが現代の子どもたちの課題でもあるので、児童会や学校行事など様々な場において、これからも運動の機会を創出していきたい。	A	B
	子どもは、縄跳び運動や体づくり運動に意欲的に取り組んでいる。		・体育授業において、縄跳びだけでなく基礎的な運動技能が高まるような運動を意識して行ってきた。 ・小5対象の全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、運動能力は小5男子が概ね全国平均よりも高く、小5女子は全国平均並であった。しかし、女子		

(様式2)

	<p>子どもは、好き嫌いしないで給食を食べている。</p>		<p>で睡眠時間が短い傾向が見られ、男女ともにメディアの視聴時間が長い傾向がある。生活習慣の見直しという面から健やかな体を育成していく必要性も感じた。          ・親学校と協力して食育教育を推進しており、子どもたちの給食に対する期待や楽しみは高まっているが、嫌いなものを口に運ぶ抵抗感を拭い去れない。</p>		
<p>学校関係者評価委員会による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前から休み時間に外や体育館で遊ぶ姿が見られる。体力づくりにはとてもよい。</li> <li>・食の好き嫌いは、学校と家庭の連携が必要ではないか。</li> <li>・好き嫌いについての具体的な改善の方策を考える必要がある。</li> <li>・以前行っていたランチルーム給食のような異学年の交流があったらよい。</li> <li>・自分自身で健康な体を作ろうとする意識が高まる取組が行われている。</li> </ul>				
<p>※学校運営に関わる対応</p>	<p>メール配信、ホームページ等を通して、子どもの様子や必要な情報を伝えている。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、保護者に緊急で連絡しなければならないことが多くあった（ヒグマ対応、悪天候による臨時休校、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖など）。すぐで伝えたが、保護者への周知方法が浸透しており、重要な情報がこれまで以上に確かに保護者へ伝わっている。</li> <li>・日頃の子どもたちの様子は、主にホームページで伝えてきた。</li> <li>・いつでもどこでも情報を携帯端末で確認したいというニーズを受けて、今年度途中から学校だより、給食だより、保健だよりをすぐで配信するようにした。また、従来のように紙面で活用したいという家庭にも対応できるよう、印刷したお便りをいつでも持っていくことができるようにした。</li> <li>・家庭へのこまめな電話連絡だけでなく、必要な時には個別面談を行い、子どもや保護者の思いを受け止めるように努めてきた。特に、いじめについては早期発見、早期対応に努めてきた。また、スクールカウンセラーとも連携し、問題解決に向けて取り組んできた。今後も、担任だけではなく学年、担任外、養護教諭、関係機関とチーム意識をもって問題解決にあたる。</li> </ul>	<p>A</p>	<p>A</p>
	<p>いじめなどの子どもの困り感や悩みなどを受け止め、ともに解決に向け対応しているか。</p>				
<p>学校関係者評価委員会による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめについて、組織として素晴らしい対応をしている。</li> <li>・この先も緊急で連絡することは増えていきそうな気がするので、メール配信などの速やかな対応は、保護者にとっても安心できると思う。</li> <li>・重点と評価項目の整合性を意識していくことで、改善の方策も具体的に見えてくるのではないかと。</li> <li>・日頃から子どもたちにとって安心・安全な教育環境を作り出す取組が行われている。</li> <li>・双方に課題があるケースがあるので、自身が自身の課題に向き合うことができるようなサポートが必要である。</li> </ul>				